

使用言語：日本語  
— 入場無料・事前登録不要

シンポ  
ジウム

# 「性同一性障害」の 行方

第十一回研究会

日時：2013年7月25日（木）13～17時

場所：東京大学駒場Ⅰキャンパス 18号館 4階コラボ1

「DSM-I からの Sexual Disorder の歴史」

阿部輝夫（あべメンタルクリニック院長・精神科医）

「DSM5 と ICD11 にみる性同一性障害の将来」

針間克己（はりまメンタルクリニック院長・精神科医）

「脱・精神病理化をめぐる国際的議論の動向」

東 優子（大阪府立大学大学院人間社会学研究科／教授）

司会：石原孝二（東京大学／UTCP）、岩川ありさ（東京大学／日本学術振興会特別研究員）

主旨：アメリカ精神医学会の新診断基準 DSM-5 において、従来の「性同一性障害」（Gender Identity Disorder）は Gender Dysphoria（性別違和）に変更された。この変更の背景にはどのような思想があり、今後どのような影響を与えていくのだろうか。本シンポジウムでは、「性同一性障害」をめぐるこれまでの歴史を整理しながら、Gender Identity Disorder/Dysphoria に関する問題を考えていくことにしたい。